

14 海の豊かさを守ろう



△ゴール14△

ゆた 海の豊かさを守ろう

世界の主な目標

- 海や海の資源を守り、持続可能な形で利用します。

日本の状況

- 2019年に開催されたG20大阪サミットにおいて、
共通の世界のビジョンとして、2050年までに海洋
プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロに
まで削減することをめざす、「大阪ブルー・オーバー
ション・ビジョン」を共有しています^{注1}。



名古屋市の取り組み例

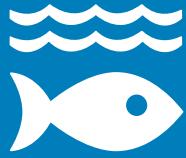
- 国内有数の渡り鳥の飛来地である藤前干潟を守
るために、その重要性を学ぶプログラムを実施して
いるよ。
- 市民や事業者と一緒に、レジ袋などの容器包装を
削減する取り組みを進めているよ。

チェック
だワン!

マンガで学ぶSDGs



14 海の豊かさを守ろう



どんな目標？

- 海や海の資源を守る
- 魚など水産資源を持続可能な方法で利用する

考えるためのキーワード

- 水産資源の減少
- 海のプラスチック
- マイクロプラスチック



水産資源の減少

Q: 将来に魚が獲れなくなる心配はないの？

A: 世界人口が70億人を超えて食料需要が増えていることや、人々の食生活が肉から魚へとヘルシー志向に移行することにより、水産資源の需要が増えています。一方で、乱獲や地球温暖化の影響で魚が獲れなくなっている事例も起きています。そのため、水産資源を将来にわたって持続的に利用するためにはどうすれば良いか、考えていかなければなりません。

Q: わたしたちにはどう関係しているの？

A: 近年の海水温の上昇などによって、サケやサンマなどは急激に漁獲量が減少していますが、一方、ブリなどは漁獲量が増えています。このため、漁業者はその時々でたくさん獲れる魚を上手に利用できるよう努力しており、また、獲り過ぎを防ぐため、漁獲量の制限など資源管理にも取り組んでいます。わたしたちも購入した魚は残さず食べて、貴重な海の資源を大切に利用しましょう。



海のプラスチック問題

Q: クジラの胃からプラスチックごみ(プラスチック)が見つかったと聞いたよ

A: 「海のプラスチック問題」の1つに、生きものたちが海に漂うプラスチックを誤って食べ、衰弱したり死亡したりする事例があります。クジラもプラスチックを誤って食べてしまったものと考えられます。また最近は、光や波の作用により5mm以下まで細かくなったプラスチック、いわゆるマイクロプラスチックも問題となっています。マイクロプラスチックは有害物質の吸着が指摘されており、これを取り込んだ海の生きものに悪い影響を与えることが心配されています。



考え方!
やってみよう!
SDGsアクション

- ✓ 水産資源を守るためににはどんなことができるかな
- ✓ プラスチックごみを減らすためのアイデアを考えて実行してみよう



目標14 愛知 × SDGsアクション ビーチクリーン活動

海岸に流れ着いた様々なごみをみんなで拾い集めるのがビーチクリーン活動です。ごみ拾いや環境イベントを紹介しているWEBサイト「BLUE SHIP」で近くのビーチクリーン活動を調べて参加してみましょう。

●ホームページ: <https://blueshipjapan.com/>

